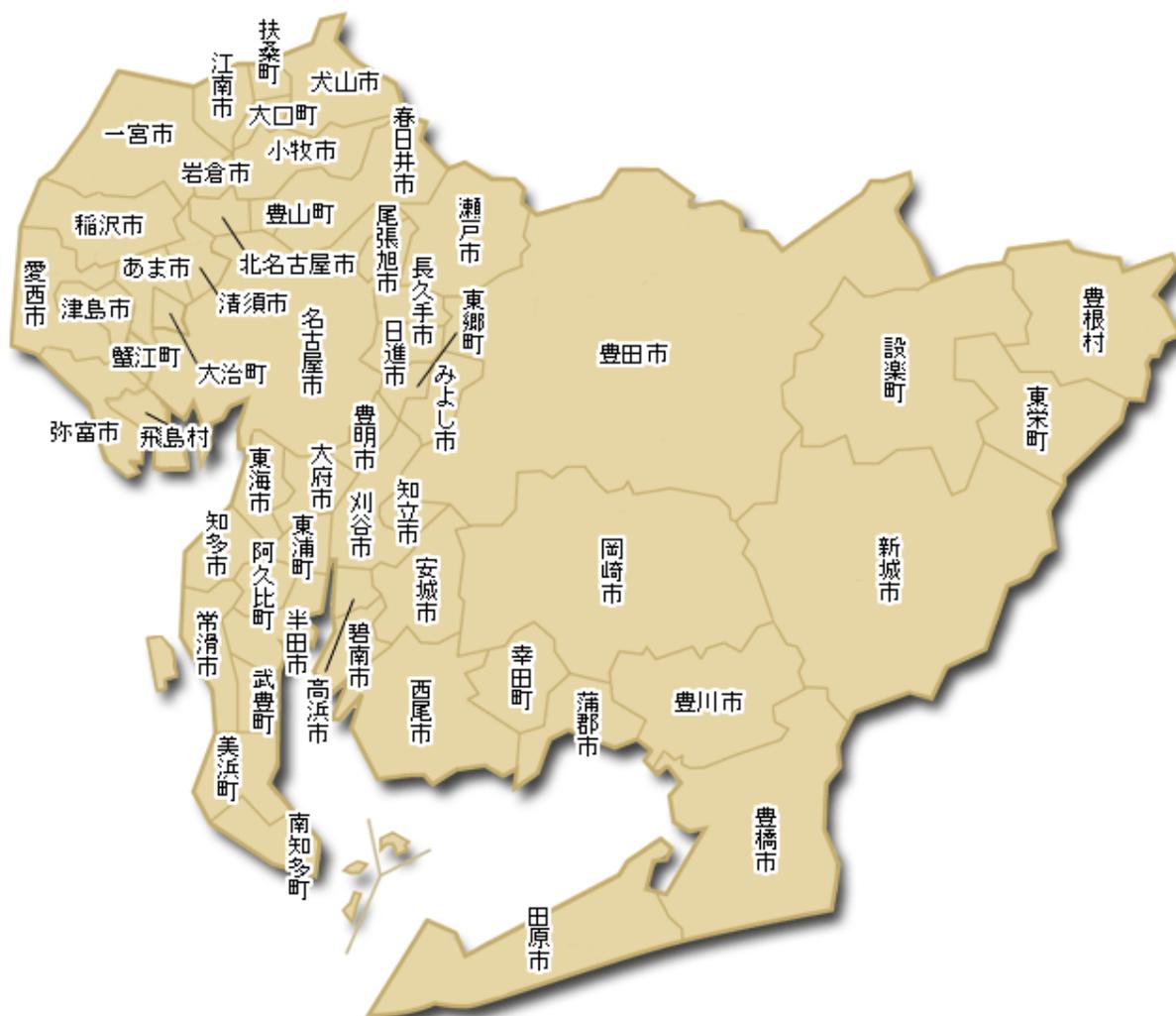


## 1-1 岩倉市の位置・市域

市 役 所 の 位 置		市 域	
東 経	136° 52' 17"	東 西 最 長	3.9 k m
北 緯	35° 16' 46"	南 北 最 長	4.9 k m
標 高	9.5 m	総 面 積	10.47 k m <sup>2</sup>

注. 経緯度の表示は世界測地系による。  
平成27年4月1日より市総面積を10.49km<sup>2</sup>から変更。



## 1-2 岩倉市の沿革

岩倉の歴史は古く、遺跡からの出土品、住居跡に見られるように、数千年前から人が住み農耕が営まれていた。奈良時代には駅家として新溝駅が設置され、交通の要衝として、また、新溝神社の門前町として発展してきた。1479年に織田氏が岩倉城をかまえ、城下町として一層発展していったが、1559年浮野合戦で信長の兵火に会い、大きな痛手をうけた。しかし江戸時代に入ると、木津用水の開通によって地域の農業は飛躍的に発展し、現中心市街地付近には次第に商工業者が集まるようになり六斎市もひらかれるようになった。

明治25年に岩倉村は岩倉町へと改称し、明治39年に豊秋村、島野村及び幼村の一部が合併して岩倉町をなし現在の市域が確定、また大正に入り鉄道が開通し交通の結節点としての役割を担うようになった。以来昭和30年ごろまでの岩倉は、岩倉街道沿いに形成された中心市街地と分散的に形成された集落を水田地帯が囲む形を維持して推移した。

昭和30年代後半から急激な宅地化の進展による人口の急増と、それに伴う施設整備、区画整理、土地改良等がまちの姿を一新し、46年には市制を施行、住宅都市として基盤を整え、「健康で明るい緑の文化都市」をめざして諸活動が続けられている。

### 沿革図

明治初年	明22. 10. 1	明25. 4. 18	明39. 5. 1	昭和46. 12. 1
曾野村 岩倉羽根村 大地村 川井村 大山寺村 野寄村 北島村	豊秋村		岩倉町	岩倉市
	島野村			
岩倉村	岩倉町		(千秋村)	昭和30. 4. 7 (一宮市)
八剣村 井上村 石仏村 神野村 加納馬場村 芝原村	幼村			

### 1-3 地目別面積

(単位：ha) 各年1月1日現在

年	総数	田	畑	宅地	山林	牧野	原野	雑種地	その他
平成 27	1,047	186	99	417	-	-	-	81	264
28	1,047	184	96	421	-	-	-	82	264
29	1,047	181	94	426	-	-	-	81	265
30	1,047	180	93	429	-	-	-	81	264
令和 元	1,047	178	91	431	-	-	-	82	265
2	1,047	175	90	433	-	-	-	82	267
3	1,047	173	88	434	-	-	-	85	267
4	1,047	172	87	436	-	-	-	85	267
5	1,047	163	83	446	-	-	-	87	268
6	1,047	161	83	447	-	-	-	87	269

資料：税務課

## 1-4 都市計画用途地域別面積

令和6年10月1日現在

種 別		面 積	構 成 比
市 街 化 区 域		531 ha	50.72 %
用 途 地 域	第一種低層住居専用地域	10	0.95
	第一種中高層住居専用地域	107	10.22
	第二種中高層住居専用地域	89	8.50
	第一種住居地域	237	22.64
	近隣商業地域	23	2.20
	商業地域	24	2.29
	準工業地域	5	0.48
	工業地域	36	3.44
市 街 化 調 整 区 域		516	49.28

資料：都市整備課